

付 属 資 料

- 1 . 別府市交通バリアフリー基本構想策定協議会委員名簿.....付-1
- 2 . ワークショップ・市民意見概要.....付-2
- 3 . 用語説明.....付-10

1 . 別府市交通バリアフリー基本構想策定協議会委員名簿

	氏 名	団 体 名 及 び 役 職
会 長	片 岡 正 喜	大分大学名誉教授 九州保健福祉大学社会福祉学部 教授
副会長	甲 斐 賢 一	別府市旅館ホテル組合連合会 エコバ-カレッジイン特別委員会 委員長
委 員	李 燕	立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部 専任講師
委 員	佐々木 富 雄	別府市老人クラブ連合会 会長
委 員	西 田 幸 生	別府市身体障害者福祉団体協議会 会長
委 員	米 倉 仁	N P O法人自立支援センターおおいた 理事長
委 員	橋 本 孝 子	別府市民生委員児童委員協議会 会長
委 員	吉 田 美 紀	別府市基幹型在宅介護支援センター ソーシャルワーカー
委 員	高 橋 寛	社会福祉法人太陽の家厚生部 部長
委 員	橋 本 光 夫	別府市自治委員会 会長
委 員	首 藤 博 己	九州旅客鉄道株式会社大分支社総務企画課 課長
委 員	竹 中 義 則	大分交通株式会社自動車部 部長
委 員	田 所 壮 介	亀の井バス株式会社バス事業本部営業部 部長
委 員	三ヶ尻 正 友	別府市タクシー協会 会長
委 員	中 野 護 勝	大分県警察本部交通部交通規制課 課長
委 員	竹 田 和 嘉	別府警察署 署長
委 員	春 田 義 信	国土交通省九州地方整備局大分河川国道事務所 副所長
委 員	岡 崎 賢 次	国土交通省九州運輸局大分運輸支局 企画調整官
委 員	橋 本 亮 二	大分県企画振興部総合交通対策局 局長
委 員	首 藤 正 則	大分県福祉保健部福祉保健企画課 福祉保健部参事兼福祉保健企画課長
委 員	久 藤 朝 則	大分県土木建築部道路課道路整備促進室 室長
委 員	義 経 賢 二	大分県土木建築部都市計画課 課長
委 員	安 藤 庸 一	大分県別府土木事務所 所長
委 員	友 永 哲 男	別府市企画財政部 部長
委 員	高 橋 徹	別府市生活環境部 部長
委 員	岡 部 光 瑞	別府市福祉保健部 部長
委 員	金 澤 晋	別府市建設部 部長

2. ワークショップ・市民意見概要

第1回ワークショップの概要

よく利用する施設や経路を検討！

第1回の検討会では、各地区ともにグループに分かれ、よく利用する施設や経路を挙げたり、まちで感じる不便な点やバリアフリーという視点から今後まちをどうすべきかというまちづくり全体の話まで幅広く活発な意見交換が行われました。

最後に、各グループで出された意見を模造紙にまとめ、発表しました。

当日のプログラム

- 1 交通バリアフリー基本構想の説明
- 2 グループ毎での討議
- 3 利用実態、問題・課題の整理
- 4 グループ発表

別府駅周辺地区

(8月2日(月) 19:00～：中央公民館)

当日は、あいにく雨模様でしたが、48名(6グループ)の市民の方(行政関係者含む)に参加いただきました。

この地区では、「駅前の放置自転車がが多く、危険」「商店などの周りの理解が必要」などマナーの向上や心遣いを期待する意見や「視覚障害者誘導ブロックを駅から施設、施設から施設へとネットワークさせることが必要」「車椅子に負担のかからない舗装や道路構造が必要」など歩道整備に関する意見などが多く聞かれました。

また、「北浜付近の国道10号は、車椅子では横断できない、地下道が利用できない」など市街地と海側が分離している地区特有の問題点の指摘もありました。



亀川駅周辺地区

(8月3日(火) 19:00～：太陽の家
コミュニティセンターホール)

当日は、天候にもめぐまれ、53名(7グループ)の市民の方(行政関係者含む)に参加いただきました。

この地区では、駅の山側(西口)に出口がないため「山側にエレベータがついた改札口を設けてもらいたい」「踏切は、障害者にとって危険なので、山側の出口が欲しい」といった亀川駅の利用についての意見が多く出されてきました。また、障害者が多く働き、住んでいる地区ということで「福祉のまちづくりを進めるべき」といった全体的な視点からの意見も多く聞かれました。



よく利用する施設・経路

別府 駅

よく利用する施設

- ・別府市役所
- ・社会福祉会館
- ・ピーコンプラザ
- ・トキハ
- ・マルシヨク
- ・海門寺公園



円の大きさが利用頻度を表しています。

亀川 駅

よく利用する施設

- ・国立別府病院
(現：別府医療センター)
- ・亀川出張所
- ・サンストア
- ・太陽の家
- ・マルシヨク



円の大きさが利用頻度を表しています。

第2回ワークショップの概要

駅周辺のバリアフリー点検を実施!

第2回を迎えた「駅周辺の人にやさしいまちづくり検討会」では、高齢者・障害者の方々と一緒に実際にまちに出て、バリアフリー点検を実施しました。バリアフリー点検は、高齢者・障害者の方々と一緒に歩くという経験を通して、実体験に即した意見をその現場で伺うということ、健常者が気付きにくいバリアを認識し、“新たな気付き”を発見するという目的で行いました。

そのため、健常者の方々に実際に車椅子を使ってまちを歩いてもらう疑似体験もしていただきました。

各地区ともにグループに分かれ、午前中は割り当てられたルートを歩きながら意見をメモし、カメラで状況写真を撮り、午後は室内で結果をまとめました。

最後に各グループで出された意見を模造紙にまとめ、発表しました。

当日のプログラム

- 1 全体説明
- 2 バリアフリー点検
- 3 問題・課題の整理
- 4 グループ発表

別府駅周辺地区

(9月12日(日) 9:30～：中央公民館)

当日は、時折雨が降るぐずついた天候でしたが、58名(事務局含む)に参加いただきました。

この地区では、「歩道も広く快適であった」という評価の高い意見があった一方、「点字ブロックの考えられた配置、信号機の充実が必要」といったちょっとしたことで改善可能なバリアが多いことが指摘されました。

ただ、別府駅や駅前広場に関しては、多くの方が利用していることもあり、「駅前広場のアプローチを何とかしてほしい」、「海側に車椅子の駐車スペースが必要」など数多くの意見が出されました。

また、「日頃何気なく通っている道が、改めて見ると気付くことがたくさんあった」というように体験を通して理解が深まっている様子がうかがえました。



亀川駅周辺地区

(9月4日(土) 9:30～：太陽の家
コミュニケーションホール)

当日は、65名(事務局含む)に参加いただきましたが、点検途中で大雨に見舞われ、点検ルートを全部回れず、残念な結果となってしまいました。

ただ、普段感じている、そして改めて気付いたバリアについて積極的に意見が出され、熱のこもったバリアフリー点検となりました。

特に、駅の山側(西口)に行くための2つの踏切に関して、「傾斜がきつい、レールと歩道が斜めで危険」など多くの意見が出されました。また亀川駅についても実際構内に入って点検を行い、「非常に使いにくい駅であるということを確認できた」など車椅子の方にとって2,3番ホームに行けない現実を目の当たりにしての意見が出ました。

また、「健常者が思いもつかないことで困っているとつくづく思った」など障害者の方々との体験を共有して、新たな気付きが生まれている様子がうかがえました。



結果概要

- 点検の結果をまとめました -

公

公共交通についての指摘

街歩きでは、実際にリフトバスに乗って乗り心地や使い勝手を確認。「もっと車椅子を固定できた方がよい」などの意見がありました。また、バス停については「バス停乗り口に至る点字ブロックが必要」という意見が多く聞かれました。また、「乗り降りスムーズに行える歩道構造に」という歩道の高さなどの調整についての意見もありました。



縁石が乗り降りを邪魔してる...



リフトバスに乗車中



乗り口に点字ブロックがほしいなあ

交

交通安全についての指摘

「駅の駐輪場から自転車があふれて歩道をふさぎ危険」という放置自転車に関する意見、「違法駐車が歩行を邪魔している」という自動車に関する意見が多く聞かれました。また、「駅前広場と市街地を結ぶ交差点の安全を確保してもらいたい」という意見が別府駅で多く聞かれました。



歩道にあふれた自転車！



自動車が点字ブロックの上に駐車...

駅

舎や駅前広場についての指摘

亀川駅では、「車椅子で2、3番ホームへ行けない、西口からのアプローチが必要では？」といった駅舎構造の根本的な問題への指摘、別府駅では「東口に車椅子の乗降スペースが必要」といった指摘などがありました。また、別府駅では車椅子対応のエスカレータに実際に乗って点検を行いました。



エスカレータをみんなで点検！

道

路についての指摘

道路の段差、傾斜など健常者が気にならないものがバリアになっていることを実感。また、車椅子で、敷石ブロックを通ると、がたつきによる振動のために非常に走行しにくいことを発見。体験を通して、初めて気付かされるものがたくさんありました。



車輪がはまったら大変なことに...



お洒落な歩道だけど...

第3回ワークショップの概要

バリアフリー対応策を検討!

第2回検討会では、実際にまちを歩き、不便な所、危険な所などを確認してまとめました。

第3回検討会は、その現状・課題を踏まえ、「どのようにバリアフリー化を図っていくべきか」具体的な内容に踏み込んだ意見交換を行いました。

また、市民自らが協力・連携して、交通バリアフリーに関して取り組めること、「私たちにできること」を考えてもらいました。

当日のプログラム

- 1 全体説明
- 2 基本構想(案)の説明
- 3 グループ討議
- 4 グループ発表

別府駅周辺地区

(10月26日(火) 19:00～：中央公民館)

当日は、あいにくの雨模様で、34名(3グループ)の参加と前回より参加者が減少する結果となりました。しかし、「1人1人がじっくり意見を出す時間があり、活発な意見交換ができた」と感想を持たれた方が多数を占めました。意見としては、道路についての意見が多く、特に点字ブロックについては、その配置の仕方の工夫によるわかりやすさの向上を望む声が多く出ました。また、中心部の道路については、夜間の安全確保のための照明の設置などの要望が出ました。



亀川駅周辺地区

(10月27日(水) 19:00～：太陽の家コミュニティセンターホール)

別府地区と同じく、前回より参加者が減少し、33名(4グループ)となりました。

しかし、別府駅周辺地区と同様に参加者の満足度が高い結果となりました。

意見としては、駅舎、駅前広場についての意見が多く、具体的には、駅舎内エレベーターの設置、駅前広場整備と同時に東西自由通路を設置するなどの要望がありました。また駐輪場に関する意見も多く、有料化を視野に入れ、管理者を置くなど、運営方法への提言がありました。



結果概要

- こんな対応策はいかが？ -
テーマ別に具体的なバリアフリー化について考えてみました。

公共交通(バス・タクシー)について

- ・リフトバスの運行改善。携帯端末を利用したリアルタイムな情報提供やリフトバス導入路線の明示、運転手の対応改善に向けた教育・研修システムの充実。
- ・公共交通事業者への行政からの補助金の充実。バス・タクシーのサービスレベルが保てるシステムづくり。



使いやすいリフトバスに！

交通安全について

- ・放置自転車対策。撤去を含めた罰則規定の強化。駐輪場を駅そばに整備。駐車問題も同様に、チラシなどの広報、指導などによる意識づけ。
- ・音声信号について。騒音被害に配慮したFM電波式の音声信号の設置。また、音声信号などの重要性を周辺住民に理解してもらう意識づくり。



駐輪場の整備を！

駅舎や駅前広場について

- ・別府駅について。障害者対応トイレの改善（改修済み）。音声サイン、点字サイン、点字ブロックなどサインの一体的なネットワーク化。
- ・亀川駅について。東西自由通路の設置。2番、3番ホームに行くことが可能なエレベーターの設置。また、駅前広場に歩道の設置。



亀川駅にエレベーターを設置して！

道路について

- ・国道10号の地下道に、エレベーター・照明の設置（安全対策）など。
- ・アーケード街の路上占有物や自転車対策。
- ・点字ブロックの色の統一、分かれ（方向）が分かるように配置。



安心して使える地下道に...

- 私たちにできることは？ -
私たち市民にできることを考えてみました。

意見交換の場をつくる
ワークショップなど一般の人達と
意見交換できる場を設ける。

連携する
商店街、NPO団体、カメカメクラブ、APUなど
様々な組織と連携する（イベント時など）

活動する
ボランティアの組織化、チラシ配布や
注意呼びかけを地域で行う。

教育
小・中学校などの教育現場で疑似体験や講座を開催する。

見る
バリアフリーの先進地視察、障害者の方
によるバリアフリー点検の実施など。

意識づくり
まちづくりの意識を地域から盛り上げていく。

第4回ワークショップの概要

交通バリアフリー基本構想(案)を検討!

第1回から第3回までの検討会での意見や基本構想策定協議会での意見を踏まえ、事務局で別府市交通バリアフリー基本構想(案)を作成しました。第4回検討会では、その基本構想(案)を事務局が説明し、参加者のみなさんにワークショップ形式で意見・質問を投げかけていただきました。

また、この基本構想策定後において、実際のバリアフリー化をどのように進めていくべきか皆さんに意見やアイデアを出してもらいました。

当日のプログラム

- 1 全体説明
- 2 交通バリアフリー基本構想(案)について説明
- 3 交通バリアフリー基本構想(案)について意見交換

別府駅周辺地区

(2月10日(木) 19:00～：中央公民館)

今回は、18名(3グループ)の参加となり、残念ながら参加者が少ない中行われました。参加者の方々は、熱心に基本構想(案)の説明を聞き、グループでの討議の時間には、積極的に質問・意見交換を行いました。

意見としては、国道10号北浜交差点の早期整備を望む声(案では中期計画として位置付けています)商店街などでの多機能トイレの設置などを望む声、音声誘導システムの導入を望む声が多く聞かれました。

また、ソフト施策など、すぐにとりかかれるものはとりかかってもらいたいという意見、そして今後の進め方について、事業実施には市民の意見を聞き、計画の進行状況を知らせるなど、常に市民と関わりを持ち続けてもらいたいという要望が多く聞かれました。



亀川駅周辺地区

(2月9日(水) 19:00～：太陽の家コミュニティセンターホール)

別府地区と同様に参加者が少なく、17名(2グループ)となりました。しかし、想定した時間をオーバーするほど活発な意見交換、質疑応答が行われました。

意見としては、やはり亀川駅のバリアフリー化についての意見が多く聞かれました。

東西自由通路の設置と駅舎のバリアフリー化をなるべく同時期に整備すべきといった内容が大半を占めました。

また、今後の進め方として亀川駅西口の整備については、市民への説明や意見を反映してもらいたいとの要望がありました。



結果概要

皆さんの意見をまとめると・・・

基本構想について

- ・音声誘導案内についての要望。
- ・亀川駅は、東西自由通路より2番ホームに行けることが最優先課題。
- ・国道10号北浜交差点の早期対策。
- ・放置自転車対策は、学校や地域と連携が必要。
- ・亀川商店街を重点整備地区に入れてもらいたい。
- ・ソフト施策は早期に行うべき。

市民参加について

- ・事業実施には、利用者の意見を聞いて欲しい。
- ・具体的な計画の進行状況を説明し、市民との関わりを継続させてもらいたい。
- ・より広報活動を行い、多くの市民で情報の共有を。

市民意見の概要

主な意見は、以下の4点。

駅舎のバリアフリー化

低床バスの導入とバス停のバリアフリー化

案内板などの表示

亀川駅のバリアフリー化

意見	市民意見	市民意見に対する対応(基本構想での対応)
意見 駅舎のバリアフリー化	<ul style="list-style-type: none"> 別府駅及び亀川駅について、交通バリアフリー法の基準を満たすように改修を考えてほしい。具体的には、エレベーターの設置、列車とホームの間隙や段差の改修、コンコース内のトイレの設置など。 	<ul style="list-style-type: none"> エレベーターの設置等を含めた駅舎のバリアフリー化を位置付けました。 列車とホームの間隙や段差については、車両により異なりますが、現行の車両は対応していないのが現状です。今後、新規車両導入時など、可能な限り、改善を図ります。 トイレについては、現在のトイレの扱い、駅前広場や駅舎のレイアウトが決定していない状況であり、鉄道事業者と駅前広場設置者間で協議が必要となります。したがって、今後の検討課題であるため、個別の位置付けは難しいと判断しました。 ただし、駅に多機能トイレを確保することに変わりはありません。(別府駅には、設置済み)
意見 低床バスの導入とバス停のバリアフリー化	<ul style="list-style-type: none"> 低床バスを導入し、障害者が利用できるバスを増便してほしい。 バス停の改善(バス停付近の整理、マウントアップ*)をしてほしい。 <p>*マウントアップ：歩道を車道よりも少し高い位置に設置し、縁石天端の高さと同一である構造。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 車両更新時には、リフトバス、低床式バス、ノンステップバスの導入を継続的に図るよう位置付けました。 特定経路上のバス停は、移動円滑化のガイドラインに沿って整備改修を進めることとなります。
意見 案内板などの表示	<ul style="list-style-type: none"> 案内板等に多目的または障害者用トイレ、低床バス停がわかるよう表示をしてほしい。また、観光パンフレット等にも記載してほしい。 障害者がわかるよう、地図などの歩道の傾斜の表示をしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 障害者用トイレについては、大分県のホームページで案内しています。 今後、観光情報と連携した交通バリアフリーの情報の充実を図ります(ソフト施策として対応を位置付けました)。
意見 亀川駅のバリアフリー化	<ul style="list-style-type: none"> 亀川駅の改修計画が実現できるか疑問である。以前にも、改修計画があったが、実現化していない。 亀川駅を西側から利用でき、乗降客が自由に上り線下り線を利用できる設備を最優先として計画してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 実行可能なことや調整できたことを位置付けました。 今後、亀川駅のバリアフリー化をできるだけ早期に実現できるように、管理者と引き続き協議を行います。 駅舎のバリアフリー化として、エレベーターの設置等を位置付けました。

3.用語説明

あ

あんしん歩行エリア

市街地内の事故発生割合の高い地区において、歩行者等の通行経路の安全性が、歩行者等を優先する道路構造等によって確保された市街地において、通過車両が生活道路に流入するなどして、事故発生割合が高いおおむね1km四方のエリアを選定し、あんしん歩行エリアと設定している。ここでは、地域と一体となった危険箇所の特定を行い、公安委員会と連携した面的・総合的な対策の実施（外周道路対策、ゾーン対策、経路対策）し、死傷事故件数を約2割抑止、歩行者・自転車の死傷事故件数を約3割抑止することを目標としている。

エスコートゾーン

視覚障害者の安全な道路横断を確保するために、点字ブロック模様の突起物を横断歩道に設置した視覚障害者用横断帯。

NPO

「Nonprofit Organization」の略。「非営利組織」となるが、意味を正確に伝えるためには、「民間非営利組織」と訳す。

NPOは、継続的、自発的に社会貢献活動を行う、営利を目的としない団体の総称。「NPO法人」という場合には、特定非営利活動促進法に基づき法人格が付与された特定非営利活動法人を指すと解されるが、単に「NPO」という場合、法人格の有無は関係ない。

LED信号機

LEDとは電気が通ると光る性質を持った発光ダイオードのことで、強い光は発生しないが、電球のような玉切れが起きない。また光り方がシャープなので西日対策になる

こと、さらには消費電力が少ないため燃費、環境対策としても有効な信号機。

か

グレーチング

屋外排水溝の蓋などに使う鋳鉄や鋼鉄製格子の金物で、車両などの荷重に耐える頑丈なもの。

交通バリアフリー法

高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律（平成12年法律第68号）

高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の利便性・安全性の向上を促進するため、以下のことを規定している。

- ・鉄道駅等の旅客施設及び車両について、公共交通事業者によるバリアフリー化を推進する。
- ・鉄道駅等の旅客施設を中心とした一定の地区において、市町村が作成する基本構想に基づき、旅客施設、周辺の道路、駅前広場等のバリアフリー化を重点的・一体的に推進する。

コミュニティ道路

歩行者などが安全かつ快適に通行できるよう、車道を蛇行させたり、歩道を広げベンチや植栽を施した地域密着型の道路。

さ

JIS規格品

日本工業規格に基づく製品。

シームレス

継ぎ目のないこと。

身体障害者更生援護施設

身体に重度の障害がある人に、その更生に必要な治療及び訓練を行う施設。身体障害者更生施設、身体障害者療養施設、身体障害者福祉ホーム、身体障害者授産施設、身体障害者福祉センター、補装具製作施設、盲導犬訓練施設及び視聴覚障害者情報提供施設をいう。

シンボルロード

地域の特性を活かした整備を行い、人々に親しみとるおいを与え、快適で美しく、楽しい道路空間。

た

超高齢社会

人口の中で高齢者人口の占める割合が相対的に高いこと。高齢化が安定した社会。

高齢化の定義（国連の定義ではないが慣例として用いられる）

人口に占める65歳以上の人口の割合

高齢化社会	7%～14%
高齢社会	14%以上
超高齢社会	21%以上

低床式バス

床面の地上面からの高さは65cm以下であって、スロープ板及び車椅子スペースを1つ以上、乗降口と車椅子スペースとの間の通路の有効幅は80cm以上であることなど交通バリアフリー法の移動円滑化基準に適合するバス。

な

ノーマライゼーション

社会において、身体障害者や高齢者等を特別な存在として見るのではなく、障害のない人とともにノーマル（普通）な生活を送ることのできる社会こそ普通の社会であるとい

う考え方。

ノンステップバス

床面の地上面からの高さが概ね30cm以下であって、交通バリアフリー法の移動円滑化基準に適合しているバス。

は

ハートビル法

高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律（平成6年法律第44号）

劇場、銀行、デパート、ホテルなど誰もが利用する施設を、誰もが利用しやすい建物にしていこうとするもの。

パブリックコメント制度

行政機関による基本的な政策等の策定にあたり、原案を公表して事前に国民から意見や情報提供を求める制度。略してP Iともいう。

バリアフリー

身体障害者や高齢者が生活する上で妨げになる障壁を取り去り、身体障害者等にやさしい生活空間を作り上げること。

ピクトグラム

文字にかわって事物や概念を伝えるために作成される図形（絵文字）の総称。例えば道路標識や案内板などの絵文字をいう。

プラットホーム

停車場などの列車に乗り降りする場所。

ペDESTリアンデッキ

高架歩道、人工地盤、歩行者回廊などと呼ばれる。車の通行路と歩道を立体的に分離させた歩行者専用道路のこと。

ホスピタリティ

親切なもてなし、歓迎を意味し、人をもてなす心、思いやり、態度の総称として使われている。

ポラード

柱上の車止め。

ま

メールマガジン

電子メールで定期的に届く新聞、雑誌のようなもののこと。和製英語でアメリカではニューズレターという。

や

ユニバーサルタクシー

健常者はもちろんのこと高齢者や車椅子利用者など誰もがわけへだてなく利用できる小型タクシー。

ら

リーディングプロジェクト

重要な地域的課題に対し、総合的・計画的に行う施策のこと。

リフト付タクシー

後方に設けられたリフトを使って、主に車椅子使用者の乗降を円滑に行うことができるタクシー。

リフトバス

中扉に設けられたリフトを使って、主に車椅子使用者の乗降を円滑に行うことができるバス。

わ

ワークショップ

主体的な参加により成り立つ、体験・創造の場を総じて指す。専門家から市民、学生まで、対象はさまざま。